

2021年 10月 24日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教 「主よ、あわれみたまえ」 詩編 51編 高橋彰

51 1 【指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。

2 ダビデがバト・シェバと通じたので
預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。】

3 神よ、わたしを憐れんでください

御慈しみをもって。深い御憐れみをもって

背きの罪をぬぐってください。

4 わたしの咎をことごとく洗い

罪から清めてください。

5 あなたに背いたことをわたしは知っています。

わたしの罪は常にわたしの前に置かれています。

6 あなたに、あなたのみになわたしは罪を犯し

御目に悪事と見られることをしました。

あなたの言われることは正しく

あなたの裁きに誤りはありません。

7 わたしは咎のうちに産み落とされ

母がわたしを身ごもったときも

わたしは罪のうちにあったのです。

8 あなたは秘儀ではなくまことを望み

秘術を排して知恵を悟らせてくださいます。

9 ヒソプの枝でわたしの罪を払ってください

わたしが清くなるように。わたしを洗ってください

雪よりも白くなるように。

10 喜び祝う声を聞かせてください

あなたによって砕かれたこの骨が喜び躍るように。

11 わたしの罪に御顔を向けず

咎をことごとくぬぐってください。

12 神よ、わたしの内に清い心を創造し

新しく確かな霊を授けてください。

13 御前からわたしを退けず

あなたの聖なる霊を取り上げないでください。

14 御救いの喜びを再びわたしに味わわせ

自由の霊によって支えてください。

15 わたしはあなたの道を教えます

あなたに背いている者に

罪人が御もとに立ち帰るように。

16 神よ、わたしの救いの神よ

流血の災いからわたしを救い出してください。

恵みの御業をこの舌は喜び歌います。

17 主よ、わたしの唇を開いてください

この口はあなたの賛美を歌います。

18 もしいけにえがあなたに喜ばれ

焼き尽くす献げ物が御旨にかなうのなら

わたしはそれをささげます。

19 しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。

打ち砕かれ悔いる心を

神よ、あなたは侮られません。

20 御旨のままにシオンを恵み

エルサレムの城壁を築いてください。

21 そのときには、正しいいけにえも

焼き尽くす完全な献げ物も、あなたに喜ばれ

そのときには、あなたの祭壇に

雄牛がささげられるでしょう。

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

「主よ、あわれみたまえ」という言葉は、キリスト教会で祈り継がれてきました。カトリック教会で聖書と典礼がラテン語で整えられた後も、これだけは「クリエ・エレイソン」とギリシア語で、福音書でイエスに嘆願する人びとの叫び声をそのまま受け継ぐように、歌われ唱えられてきたのです。そして、さらにその背後には今日の詩編51編に見られるような神への悔い改め、全面的な立ち帰りの祈りがあります。

詩編51編は神への「悔い改め」がテーマとなる代表的な詩であり、宗教改革者マルティン・ルターは「七つの悔い改めの詩編」(6、32、38、51、102、130、143 編)を取り上げて聖書の講義しています(1516-17)。そしてその時期に、95箇条の公開質問状をヴィッテンベルク城の教会の門扉に貼り出し、カトリック教会に批判的問いかけをしました。宗教改革の原点とされています。その最初の質問が①「私たちの主であり師であるイエス・キリストが、『悔い改めよ…』と言われたとき、彼は信ずる者の全生涯が悔い改めであることを欲したもうたのである。」、②「この言葉が秘跡としての悔悛(すなわち、司祭の職によって執行される国会と償罪)についてのものであると解することはできない」というものでした。ルターは51編を3度取り上げて講義しました。彼の信仰と神学において重要な意味を持っています。

コロナ危機以降、ルターの信仰と神学を同時代のペスト流行の影響を重ねて読み解く試みが注視されています。

51編の詩人は神に「わたしを憐れんでください」と祈ります。詩人は自分の中に神への「背き」(反抗心)、「咎」(故意の)、「罪」(過失)があることを心深く痛感しており、それらは秘儀や秘術の作為では解消されないことも承知しています。ただ神が慈しみと憐れみによって「ぬぐわれ」、「洗い」、「清め」てくださることに頼るしかないのです。この詩はダビデ王が姦通の罪を犯し、それを預言者ナタンに鋭く批判された時に神の前に悔い改めた場面になぞらえられています。しかし、個人の罪だけでなく、イスラエルの民の罪と滅びの嘆きと悔悛もこめられています。

「清い心」は神の「創造」のわざになぞらえられます。それは聖霊の働きの土台に固く根ざして新たに生きる力を与えられます。それは怖れや恐怖に強いられて生き、何かをなして行動する在り方でなく、自由な者として「自ら進んで」(詩 54:8)、神の道を教え、喜び歌い神を賛美する生き方です。打ち砕かれて神の前にへりくだり、全面的に神に方向転換し、神の創造によって心を新たにされて清められ、神と共に生きることこそが、神に献げるべき最大の、そして他に何の必要もない献げものであることを教えられます。